

令和4年度(令和3年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	34-6	
PDCA	主要事業名	博物館一般事務	部課名	教育部博物館	担当 内線	谷川 23-7173	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 1 単位施策： 学びの推進 全体事業期間： 令和 3 年度 ～ 3 年度 全体事業費等： 7,307 千円 会計 一般会計 歳出科目 09.05.03.10.03 3か年実施計画（当該年度事業費等）： — 千円					目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用	
	事業概要等	事業概要： 郷土の自然・歴史・民俗・産業・芸術等に関する資料を広く収集、保存するとともに、これらの博物館資料に基づいた調査研究及び展示、教育普及事業を行います。					
		事業目的： 博物館の見学や各種博物館講座への参加を通して、郷土の自然や歴史、文化への理解を深めます。					
		事業内容： 常設展示室や収蔵資料の管理を始め、博物館講座等の教育普及事業、年報、紀要の発行等を行います。					
		問題点・課題等： 収蔵資料の整理及び調査研究を行い、その成果を常設展示に反映させていくとともに、各種教育普及事業により、市民の来館を促す工夫が必要です。					
	予算額	主要事業とする理由					
	7,307 千円	博物館は、資料の収集・保存、調査研究、展示、教育普及の専門的機能を持ちます。これにより、貴重な資料を次世代へ保存・継承するとともに、郷土の自然や歴史、文化への理解を深めることが、博物館の最も重要な使命であるためです。					
	財源内訳						
	市費	得られる成果					
	7,255 千円	博物館の見学及び博物館講座をはじめとした教育普及事業への参加を通して、郷土の自然や歴史、文化への理解が深まります。					
	国費						
	0 千円						
	県費						
	0 千円						
	その他						
52 千円							
D 値得られた成果と実績	決算額	得られた成果					
	7,228 千円	感染防止対策による人数の調整を行ったため参加人数は目標値を下回ることとなりましたが、新たな講座「かんたん実験で地震について学ぼう」、「クリスマスリースづくり」を含めて10種類の講座を開催することができました。					
		成果指標					
			令和3年度	単位			
	博物館年間入館者数	実績値	80,402	人			
		目標値	100,000	人			
	博物館講座参加者数	実績値	199	人			
		目標値	450	人			
		実績値					
		目標値					
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 新型コロナウイルス感染症対策として講座参加人数を減らしたため、参加人数は一昨年度より減少することになりましたが、「かんたん実験で地震について学ぼう」という講座を新たに開設し、参加者各々が実験を進めながら地震のしくみを学ぶというこれまでとは違った体験をしてもらうことができました。また申し込みを抽選にしたことで、多くの申し込みがありながら参加ができない方が大勢いたので、今後は人数を調整し、効率の良い抽選のしくみに変えていく必要があります。					
A 今後の課題の解決に向けた方向性	今後の事業の方向性	改善推進 学芸員の専門分野を活かした講座を続けていながら、従来の内容の見直しや、新たな講座を追加していくことでこれまで博物館に来たことがない方々にも興味関心を持ってもらい、さらなる入館者数の増加に努めます。また、収蔵資料の整理及び調査研究を進め、常設展示の内容を更新し充実させることで、さらに魅力ある博物館づくりを推進します。					
	観点別評価	必要性		有効性		効率性	
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	⑧削減余地	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—

評価項目（決算時に作成）
主要施策の成果報告書で活用